

聞こえにくくても英語はできる

辞書とフォニクスがひらく
難聴中学生の英語学習



NEWHS

Niigata English Work for
Hard-of-hearing Students
新潟難聴中学生のための英語学習会

白井 一夫

なぜ難聴中学生に英語なのか

- ・難聴中学生の最大の問題は自己像形成
- ・難聴中学生のポジティブな自己像の形成を阻害するのは学習不振とコミュニケーション不全感
今日はコミュニケーションのことは深入りしない
- ・難聴中学生の学習で、最大のネックは英語
…経験的事実としてはそうである
- ・難聴中学生の英語学習を何とかしてやらないと、難聴中学生は救われない？
だから 素人ながら 英語を試行錯誤している

今の英語教育は

- ・英語教育 = 第二言語の習得・学習 (acquire)
- ・現在、世界中で広く採用されているのが communicative approach という方法
- ・現在の学習指導要領もこの考え方の影響を強く受けている。
「コミュニケーション能力」を培うことを強調
英語での遣り取り・表現する活動が中心
「使える」「できる」の強調
入門期は音声のみで…文字は遅れて導入

どういう英語を身につけるのか

ほっておいたら、難聴の子はわかるはずがない…

- ・単に、単語がわかる、文法がわかる、英文が読める、という教科的な英語ではない
- ・「使える = 会話ができる」ことの強調
「聞く・話す・読む・書く」の4つの活動、と言いつつも、「聞く・話す」という音声言語への傾斜
- ・センター試験も、リスニング重視
- ・授業の際にも、英語での指示が奨励され、日本語による説明は排除される傾向。
Class room English
‘Open your textbook to page .’
‘Look at the black board.’ ‘Repeat after me.’

第二言語習得のモデル (村野井) (back)

インプット

気づき：注意を向けて語彙・文法・音などを取り入れる
理解：「意味理解」+さらに深い「構造分析」の理解
内在化(インテイク: intake) 学習者が、取りこむ
統合：忘れることなく使えるように、長期記憶として言語システムに組み込まれていくプロセス

理解・アウトプット

「第2言語習得研究から見た効果的な英語学習指導法」より

インプット提示の問題

難聴の子どもの第二言語学習が疎外されるのは？

- ・音声言語によるインプット処理の強制
難聴の子どもには、不可能 ないしは かなり難しい。
(=注意しても必要情報をとらえきれない)
 - ・インプットがインテイクになりにくい
 - ・第二言語学習の最初の段階において「門前払い」をくらってしまう。(戻る)
- 中学校に入って楽しみにしていた最初の英語の時間、ALTの言うことに全くついていけず泣き出してしまった子ども
(「難聴児生徒理解ハンドブック」に所収)
- この悲劇を何とかして乗り越えたい

そもそも言語,ことば,とは? (原弘)

7

- ・言語の構造・成り立ち・要素からみると・・・
音・集まって 単語・集まって 文・集まって 談話
 - ・音から単語を作る時・・・ルールはない(恣意性と呼ぶ)
(イとヌ イヌ,dとoとg dog)
だから単語は覚えるしかない
 - ・単語が集まって文を作る・・・文法がある(語順など)
ルールを理解しないと意味が通らない
 - ・文が集まって談話を形成(文脈を持つ)
通常のやり取りはこれ
- * 音を「文字」に置き換えると書記言語(書き言葉)になる

音の果たす機能・役割ー示差性

8

- ・単語を構成する一つ一つの音(音素・音韻)
 - ・果たしている役割ー示差性
音素の違いが,語弁別を可能にする
mat - map: tとpの聞き分けで語を弁別
start - smart - skirt
例を挙げればきりがない・・・
(聴力がよくても)難聴の子にはかなり難しい
- 書記言語(書き言葉)を活用した学習で補う
そのための道具・・・辞書とフォニクス

NEWHSの根本発想

9

- ・音だけで勝負する英語では差が開くだけ
 - ・書き言葉の英語で勝負する
入試だったらこれでかなりやれる
ITの時代 英語のメールが書ければ・・・
 - ・言語の構造を踏まえて考える (cf言葉の構造)
- 1) 単語のレベル
単語習得の方法としての辞書とフォニクス
 - 2) 統語・文法のレベル
単語をつないで文を作る(構文トレーニング)
 - 3) 談話のレベル・・・まとまった英文を読み理解する

言語学習のスタートは語彙獲得から(back)

10

- 単語がわかる = 下のすべてがわかること (資料1)
- 1) スペル(spell)・・・アルファベットでどう書か。
 - 2) 読み・・・どう読むか(発音するか)
 - 3) 意味・・・英語の単語を日本語にすると・・・
- * 二つ以上の単語がまとまって,意味を表すことも多い
get upは「起きる」, look at「見る」, look for「探す」
- 単語テストのパターン
日本語を書いて,英語のスペルを書かせる
英語のスペルを見て,日本語の意味を書く
読みを書かせたり,強く読むところを書かせたりする

単語学習の武器としての辞書

11

- ・辞書には単語のすべてが書いてある (資料3)
- 例: earthを引いてみると
earth [ə: アース] 名
1 (theをつけて)地球 2 (空に対して)地,地面
* 単語の意味は一つとは限らない
* 辞書を,読み進むと例文(その単語を使った文)
や 連語表現(on earth;地球で)が書いてある。
- ・辞書を活用しながら語彙を増やしていくと,聞き取りにも好影響が期待できる
 - ・読みを確認する道具として活用・・・電子辞書では不可

こんなワークシートを使って(資料9)

12

単語	スペル	読み	意味

教科書の単語を辞書を使って調べる時に使う

- 1) スペルを書いてその上に読みを書く
 - 2) 意味をメモし,最後に何回かスペルを書く
- こういうシートで,スペル・読み・意味をまとめて整理する

英語の聞き取り・発音

13

- 発音できると聞きとれる
 - 音声の語彙を増やそう
「日本語や外来語とはどうも違う」ことを理解させながら
- <ポイント>
- 1) きこえた通りに復唱する態度を育てる
バスケットボール パ・ケ・ボ
ベースボール ベイ・ポー
みんなかなりいい加減にしか聞こえない
 - 2) プロソディ（韻律情報）への注目(!?)
アクセント(強弱), 音節数(読みのリズム)など

英語の音節・音韻構造 - 日本語との比較

14

日本語	英語
モーラ言語 バ・ス・ケ・ット・ボ・ー・ル	音節言語 bas/ket/ball(3シラブル)
開音節言語 母音で終わる(hana)	閉音節言語 子音が母音をはさむ(pick)
ピッチアクセント アメ()アメ()	ストレスアクセント Eng/lish(赤がストレス)
音拍リズム モーラ拍(等時性が基本)	強勢拍リズム 強弱の交代

英語の聞き取り・発音

15

- 細かい子音にこだわらない(特に無声音)
k, s, t, f, h なんかは聞こえないことも多い
- 英語は8母音-日本語とほぼ共通
アは4つ(a æ), i u e o は同じ
- 慣れれば二重母音も大丈夫
ai, ei, ou, など(Hはエッチじゃない, エイチだ)
- 音節構造をふまえた指導 (資料2)
発音聞き取りの単位としてのシラブル・ストレスへの注目



単語を読み・聞くポイント

17

- シラブルの数を確認
あいまいな時には辞書で調べましょう
手をたたきながらやるのも効果的
最初はゆっくり, だんだんスピードを上げる
読むスピードが上がると, 母音に後続する子音はほとんどわからなくなってしまう
- ストレスの位置は重要
意外と指導者も間違え, 方言もある?
- 指導者が読んで聞こえた通りに言わせる
何が聞き取れて何が苦手か指導者に見えてくる

第二言語学習の原点に戻って

18

- 学習のスタートは, インプットをインテイクに変えること (cf. 第二言語学習)
 - インプットを「注意」によってインテイクに変えることは難聴の子どもでも可能
対象が音声言語でもある程度はできる
 - その際には英語の音節構造をふまえる
子音は捨てて母音で勝負
プロソディに注目するトレーニング
- 大変なのは最初, 語彙が増えれば学習は進む

書記英語への発展が重要

19

- 中学校に入ると「聞く」「話す」に加えて「読む」「書く」の活動が入ってくる
文字を活用しながらの学習につまずく生徒も多い
幸いローマ字を読める子が増えている
- コンピューター入力の副産物？
- 書ける、読めるためのフォニクス
スペルを意識的に読みと結び付ける
さらに類推が聞くようにトレーニングする
そのことで単語も覚えやすくなる
音で覚えるのが人間の脳には自然？



PHONICSの基本 (資料7)

21

- 子音の読みはローマ字とほとんど同じ
- ローマ字にない子音は意識して教える
l, f, c, j など…いくつもないので問題ない
- 母音は難しい…ローマ字とは相当違う
cut, make, book, teacher, など
- 二字以上がセットで読みが決まるものも多い
stream, boat, bear など
- 二重母音と長母音に気をつける
イー, オー, オウ, エイ, など

Phonics をどう取り入れるか

22

- 系統的な指導方法もあるらしい
- NEWSでは
- 1) まず、辞書による語彙習得を先行させる
phonicsは音声言語としては語彙を持っている
幼児の教育方法として活用されている
語彙が少ない段階では効果が出ない？
- 2) 200くらいの単語を覚えれば準備完了？
1年生の夏休み前後から意識的に開始
慣れてくると教科書の本文を、すらすら読めるようになる

構文トレーニング

23

- 統語…単語と単語をつないで文にしていく
個々の単語の意味はわかるが、文意が通らない
- 単語の数も問題に
項(単語)が増えると相互の関係把握が必要になる
- a) I have a book.
- b) I study English every day.
- c) He bought a computer game at the shop in Tokyo.
- d) He and I were chatting when my mother called me.
- 文法事項も理解が必要…過去形, 接続詞, etc

構文の基本 (資料5,6)

24

- 1 単語をつないで文にする力
読書や書き言葉の力に支えられるもの
第一言語の言語力とも相関
- 2 「主語 + 動詞 + X」による文意の把握
英語の構文の骨格は主語+動詞
主語と動詞を見つけることが第一
動詞がわからないと どうしようもない！
- 3 単語をグルーピングして、フレーズにまとめる
連語表現もここに含めてもいい ; in front of, etc
フレーズをうまくつなげれば文は完成する

語順を処理するには (資料8)

25

I got up early this morning.

主語 + 動詞 + X(主語と動詞以外の成分)

これを日本語になおすと……

わたしは (今朝, 早く) 起きました

主語と動詞で、前後を挟み、真ん中に
Xの内容を入れていく

だから、主語はしゅごく大事
この発想をたたきこんでいく！

品詞の理解

26

- ・品詞とはなにか
文中の働きによって語を区分したもの
- ・日本語の品詞区分
欧米語の区分を持ち込んでいる
異なる文法に対応するのでそのまま英語学習には使えない
- ・英語も、名詞、形容詞、は比較的わかりいい
- ・前置詞は助詞とイコールではない

品詞は中学校段階ではそんなに難しく考えないでいい、
要は習うより慣れるで名前を覚えておく**とbetter**



文法事項の学習

28

ここからはきりがないので、時間があるだけいろいろトピックを話します。尻切れトンボになったらごめんなさい。

- ・文法事項の学習には、難聴児・聴児の間に差はない
- ・文法事項は理解が必要
授業時の説明をどれだけ理解できているか、が重要
- ・個別指導で、丁寧に説明してやるのはとても有効
- ・基本語彙が不足していると、説明そのものや例文が理解できない……語彙習得が基盤を形成する

NEWSHの生徒で、2年半ばかり成績が上がり始める生徒がいる
語彙習得の基盤ができていると「慣れて」「やる気」になると理解できる

音声英語と書記英語

29

- ・実はどちらも大事……アルファベットは音を表す
- ・「聞く・話す・読む・書く」はバランスよく……学年進捗とともにどれも重要に
- ・片方をきちんとやれば、必ずもう一方にも好影響
- ・個人内のバランスは聴力が関係する
- ・聴力レベルが、中等度 高度 重度 となるにつれ、やはり書記英語の比重が増す
英文を見ながら聞き取れる聴力なら、「聞く」「話す」もかなりやれる

英語はとりわけ予習が大事

30

- ・単語を調べておく……読みが分かるだけで説明が分かる
- ・書き取りをたくさんやると、視写が早くなる
黒板を早く写せれば先生の説明に集中できる
- ・どんなことをやるのか、不明な点をつかむ
不明なところだけ聞かせてもらうつもりで
- ・授業の組み立てを飲み込めば対応しやすい
英語授業ではコミュニケーション活動に参加できることが大切

辞書を使い、単語を調べて身につける
学習は、授業の理解と参加にも有効

教科書を使いこなす

31

- ・どこに何が書いてあるかを種明かしする
活動例(練習問題)、単語、例文、本文
文法事項のまとめ
- ・本文への対応だけでは
テストや授業には対応できない
文法能力 談話能力 社会言語能力 方略能力
- ・教科書にカタカナでルビ・・・絶対にダメ
カタカナを読むだけになり、スペルを覚え
ない
ノートに本文を書き、そこにカタカナ書きはO.K.
教科書で読む練習、分からない時だけノートで確認

ワークを使いこなせれば、70点くらいは・・・

32

- 学校のワークやプリントを自分でやれる力を
- ・ワークの構成
単語確認 構文練習・文法事項 英作文や発展課題
- ・単語確認は辞書が使えればO.K.
- ・構文練習、文法事項はやっかい
二つの理解が必要・・・学習内容と問題の形式
- ・学習内容・・・授業時の説明と個別指導で
- ・問題形式・・・だれかと一緒にやってパターンになれる
この辺までくれば、あとはやる気しだい

より高いレベルを目指して

33

- ・英語の力がついてくると、談話レベルの処理が必要になる
長い文を読みこなし、内容を掌握する正誤問題(T-F)
代名詞の内容を読み取る問題
自分の考えを英語で表現する問題が最近流行
- ・進学校へ行って、センター試験を目指す場合にはこのレベルまでが必要
英語体験を増やす(可能な限り、音声・書記の双方で)
その割合は聴力レベルによる
テキストを見て英文が聞ければ、会話もかなりやれる

小文字はつまづきの石

34

- ・単語が覚えられない、という子は・・・(cf)
スペルを覚えられない子が多い
スペルは小文字から出来ている
- ・小文字をただ書くよりも、辞書を引く、書き取りをする、という単語習得トレーニングの中で
- ・意外と有効なスペル読み
例えば book なら ビー・オー、オー、ケー と
- ・入門期に何回も ひと月くらいで慣れる。
- ・たまに思い出しやってみるといい・・・

最後にもう一度

35

- ・英語ができないことは悪いことではない
聞こえる子でも、嫌いで不得意な子は沢山いる
- ・「英語ができない 自己評価が低くなる」という回路を回避したい
- ・思春期前期の中学生の課題は自己意識
- ・学習支援とコミュニケーションはその両輪
- ・英語をネックにしないためのNEWHS
- ・英語は意外と取り組みやすい
文字で勝負できる、入学時の学力差が小さい

明るくて前向きな中学校生活のための支援を